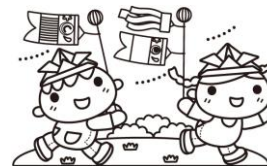




平成 27 年度 5 月の園だより



保育参観・総会 5月9日(土)

乳児： 9：15～

幼児： 10：00～

総会： 11：00～

園でのお子さんの様子をお話したり、保護者のみなさんと子どもたちと保育者が一緒に遊べる内容を計画しています。たくさんの方の参加をお待ちしています。

参観後は、5階ホールにてひまわり会の総会を行います。

小学生交流会 5月9日(土)



3月に卒園した新1年生を招いて交流会をします。別べつの小学校に行った懐かしいお友だちとの再会を喜び、保育園の給食先生自慢のカレーを昼食にいただきます。その後、楽しくゲームをしたり、学校での様子を話し合ったりします。

保育園はいつまでもみみょうの子どもたちを温かく見守っていきたいと思います。

みみょう文庫 貸し出しについて

みみょう文庫の貸し出しが始まります。

幼児クラスは、自分で絵本を選びます。乳児クラスは親子で絵本を選んでください。親子で絵本を広げ、お話の世界を共有することで楽しく、会話も増えるきっかけとなることでしょう。また、子どもにとって大好きな大人が絵本を読んでくれることで、愛情を実感し、親子のつながりが深まります。また想像力が身につく、発想豊かな子どもに育ちます。

機会をとらえ、親子で絵本を楽しんでいただけならによりです。

「自尊心を高める子育て」

新年度に入って、早いものでもう1か月がたちます。子どもたちもあたらしい環境に少しずつ慣れ、泣き顔よりも笑顔がたくさん見られるようになってきました。例年この時期になると体調を崩す子どもをよく見かけます。疲れが大敵となります。お子さんの体調には十分ご配慮をお願いします。

さて、一般的に日本人の「自尊心」は諸外国にと比較して低いというデータがあります。「自尊心」とは、自分自身を他者とのかかわりを通してかけがえのない存在、価値ある存在としてとらえる気持ちであり、自分自身を好きだと感じ、自分自身を大切に思える気持ちのことです。「自己肯定感」と同義語です。「自尊心」の高い子どもは、情緒が安定し、責任感がある、社会的適応能力が高い、成績もよい、ルールをよく守るなどの特徴がみられます。

なぜ、日本の子どもたちは低い傾向にあるのでしょうか。青山学院大学教育人間科学部教授であり、児童精神科医の古庄純一先生は、①親自身、とりわけ母親の自尊心が低い影響(連鎖)がある。②子育てに対する期待と責任が大きくなる中、親自身がピリピリとしていて子どもの存在をありのままに受け入れる余裕がなくなっている。また、子ども自身も期待に応えるよい子であろうとするがゆえに、それがかえってストレスとなりネガティブに物事をとらえてしまう。③親の考え方や生活環境、学力に大きな開きがあり、一斉授業をこなしていくには限界にきている。学校がストレスの生まれやすい場所になっている。④KY(空気が読めない)という言葉に示されるように、社会全体にゆとりのなさがあり、自分らしさを表現することに大きな制限がある。また多数に押し切られて自由な意見ができない、息のつまりそうな閉塞感

である。こうした理由を挙げておられます。では、「自尊心」を高めるためにはどうしたらいいのでしょうか。古庄純一先生も同様なことを述べられていますが、まずは、子どもの話に耳を傾ける。その際、否定、肯定するのではなく、傾聴(より深く丁寧に耳を傾けること)であり、自分の訊きたいことを訊くのではなく、相手が話したい、伝えたいことを、受容的・共感的な態度で真摯に“聴く”行為)に徹することが大切だと考えます。また、子どもたちは、誰もが大人たちから誉められたいのです。「すごいぞ!」「がんばったね!」と、結果や成果よりも努力やその過程を誉めてほしいのです。そして、いつの時代も親は子どもにはこうあってほしいという願望を持っています。願望を持つことは親としてとても大切なことですが、押し付けずにまずは子どもの気持ちを認めてあげてほしいのです。認めてあげることで子どもはどうしたいのかを自然と考えてくれるようになります。最も大切なことは、「生まれてきてくれてありがとう!」という気持ちで接することです。子どもは必ず愛されている、受けとめられていると感じてくれます。そうしたやり取りを繰り返すことで自尊心は高くなる(あまり高すぎても対人トラブルになる可能性もある。)と考えます。

みみょうの保育理念には、自我や個性(アイデンティティ)の確立があります。「自尊心」がとても重要になってきます。引き続き、その子なりのよいところを見つけて認めて誉めていく保育を心がけてまいります。そのためには、一人ひとりを大切に、しっかりと話を聞き、心に寄り添ってまいります。ご理解とご協力をお願いします。

手のひらの記憶

熱はないかと おでこにあてられた
手のひらは
よく、ニンニクのおいがした。
水仕事のあとはひんやりしてて
ときどき すこーし、ざらざらしてた。

ちょっとがあつくて、しっかりしたその手で
手首をぎゅっと握られて、
デパートで座り込んでもすぐ立たされた。
砂ぼこりが舞うと、鼻と口をいっぺんに
ふさぐ手。
汗びっしょりの頭をシャカシャカふく
指のカ。

つないだ手をぶんぶん振ったときの感覚や
それを振りきって話した瞬間、
指を一本えらんで握った感触・・・。
子どもの自分をゆっくりたどると
おかあさんの手のひらの弾力や温度までが
この手のひらや身体のおちこちに、
よみがえる。
おふろでふやけた しわしわの両手で
ほっぺを包まれたときは、まだ湯気のおいが
してた。

大和書房 ムラマツエリコ
なかがわみどり作
「おかあさんとわたし」

火あそび、ダメ!

「消さないで あなたの心の注意の火」
広島市南消防署
整防課 救助係



防災 訓練